

全員協議会会議録

- 1 日 時 令和7年10月8日(水) 10時59分開会 12時01分閉会
- 2 場 所 第2委員会室
- 3 出席議員 山本奈央・田村幸紀・只野敏彦・川上 均・中河つる子・鈴木孝寿・
橋本晃明・桜井崇裕・佐藤幸一・西山輝和・中島里司・深沼達生
議長：山下清美
- 4 事務局 事務局長：大尾 智、次長兼総務係長：宇都宮 学
- 5 説明員 町 長：辻 康裕、副町長：西田史明
企画課長：鈴木 聡、同企画統計係長：青砥大将
- 6 議 件
(1) 町長からの申し出事項について
①第6期清水町総合計画 後期基本計画(素案)について
- 7 会議録 別紙のとおり

【開会 10:59】

(1) 町長からの申し出事項について

①第6期清水町総合計画 後期基本計画（素案）について

山下議長：これから全員協議会を開催する。町長からの申し入れ事項についての全員協議会である。最初に町長から挨拶をいただく。

町長(辻 康裕)：皆様おはようございます。お忙しい中ありがとうございます。本日は第6期清水町総合計画後期基本計画の素案について説明させていただく。皆様どうぞよろしく願います。

山下議長：それでは、担当のほうから説明をお願いします。

企画課長(鈴木 聡)：企画課の鈴木です。本日はよろしく願います。では、座って進めさせていただくので願います。本日、第6期清水町総合計画後期基本計画素案についてご説明を申し上げたいと思う。

第6期清水町総合計画については、令和3年度から令和12年度までの10年間を計画期間として、基本構想のもと、基本計画を前期5年、後期5年で策定することとなっている。この度、令和7年度の前期計画が終了することから、令和8年度から5年間の後期計画の策定を進め素案を取りまとめたので、本日もご説明させていただきたいと思う。また、基本構想のうち人口目標について、国立社会保障人口問題研究所の推計や、昨今の出生状況等も踏まえ、目標値を見直して参りたいと考えている。後期計画の策定においては、前計画の検証を行うとともに、総合計画審議会における意見や無作為抽出で委員を委嘱した住民協議会での議論を踏まえ、素案を作成させていただいている。今後、10月15日よりパブリックコメントを行い、広く町民の皆様のご意見をいただきたいと思っている。その後、いただいたご意見を参考として最終的な後期基本計画案を策定し、総合計画審議会からの答申をいただいた後に、再度精査し12月の議会にご提案をたく考えているので、ご理解の程よろしく願います。本日も配付した資料によって、第6期総合計画後期基本計画素案及び人口目標の詳細について、担当の青砥係長より説明させていただくので、よろしく願います。

企画係長(青砥大将)：企画課の青砥です。私のほうから、本日の説明事項について説明させていただく。失礼であるが座って説明をさせていただく。総合計画について、計画の概要については只今鈴木課長のほうよりご説明させていただいたが、先ほど説明もあつたとおり、今年度については令和8年度から12年度の後期基本計画を策定する年となっているので、計画の素案について、この後説明させていただくが、後期基本計画の策定とあわせて基本構想についても一部見直しを行いたいと思っているので、先に基本構想の部分から説明させていただく。資料1のほうとなるのでそちらをご覧ください。基本構想については今の計画体系の中でも申し上げた通り10年間の構想となっているので、基本的には内容の見直しなどは行わずに、基本計画や実施計画を見直すことで基本構想で定めている町の将来像というものの実現に向けた取り組みを行っていくこととなっているが、基本構想の中で1点だけ人口ビジョン値に関する部分の見直しを行いたいと考えている。最初に資料1の2枚目のページをご覧ください。こちらの資料1の2枚目については、現行の総合計画の概要版を抜粋した資料となっているが、この人口ビジョン値については、国立社会保障人口問題研究所、通称社人研と呼ぶことが多いので、計画上の社人研と記載しているが、この社人研の人口推計をべ

ースとして清水町で特に力を入れて行っている子育て支援施策や、人口減少対策施策などにより、社人研の推計を上回ることを目標にした人口推計が上の人口目標値という線になっている。なぜ今回この人口ビジョン値を見直したいのかと申し上げると、計画の中で、令和12年に総人口8,779人を確保するという目標値となっていたが、今年の直近の人口8月末の数字になるが、8月末の段階で既に8,669人と当時定めていた令和12年の目標値を下回ってしまっていることに加えて、社人研の推計についても、現在計画に記載のある平成31年推計から最新の令和5年推計というものが公表されたこともあるので、新たな社人研の係数や、人口の最新値をベースに現状に合った人口目標値を新たに設定するものとなっている。新たに設定する見直し案というのが1枚戻っていただいて、資料1—1ページ目となっている。この資料1の掲載の見直し方針については、前回の推計時と基本的な考え方は変更していないが、最新の令和5年社人研推計をもとに、清水町が取り組む各種施策により、社人研の計数に合計特殊出生率を1.5、それから人口移動率を社会減0.5倍、社会増1.5倍することによって、新たに定める目標値がこの資料に記載のある赤い線の部分となっている。今回社会増減の目標は前回と同様としているが、合計特殊出生率の部分を1.6から1.5に変更している。変更した理由としては、5年前は本町の合計特殊出生率1.45という現状値に対して1.6という目標を設定していたが、最新の現状値としては1.34と、当初より0.1%低い現状値となっていることであるとか、今後長期的に見ていけば分母となる人口が減少することなどに伴って、全国的に合計出生率は増えていくことが予想されているが、2030年頃までは概ね現状のまま推移する予想となっているので、清水町の現状、また全国的な予想推計というものを踏まえて、今回の見直し方針としては、合計特殊出生率は一律で1.5としている。資料には参考に今までの1.6ベースでの推計の数値も載せている。人数としては大きく変わらないが案としては1.5ということで今回作成させていただいた。本来であればこの人口ビジョン値についても素案まで策定した段階でこの場でご説明したかったが、計画策定にあたっては9月末の人口推計を使ったかったため、本日の開催日程上、資料の作成が間に合わず8月末の数字で、見直し方針という形で今回作成した内容となっているが、この後ご説明する基本計画部分と併せてご確認いただければと思う。基本構想の見直しの方針の説明としては以上とさせていただきます。

続いて、後期基本計画素案部分について説明させていただく。資料としては資料2—1というもの、それから参考に今までの計画を見え消しにした資料2-2というものを配付させていただいている。後期基本計画の策定に当たっては、基本構想に記載のあるとおり目標の達成状況の評価及び検証を行うとともに、社会情勢や町の課題、住民の思いなどの変化に伴う見直しを行い後期基本計画を定めるという方向性のもと、本日配付させていただいた後期基本計画の素案を策定している。少し具体的に申し上げますと、現状に合った指標や目標値の見直しを行い、前期基本計画の中でも大きく触れている新型コロナウイルスの対応の関係であるとか、全国的に急速に進んでいるデジタル化の関係、あと、町長公約などを踏まえた内容への見直しを行って策定した計画の素案となっている。時間の関係もあるので基本計画の中身については一部のみご説明させていただく。資料を2つお配りしているが、見え消しのほうの変更点がわかりやすいと思うので、資料2—2のほうを使って説明させていただければと思う。まず最初に、資料2—2の29ページご覧いただく。29ページの4編4章の「地域の潤いにつながる交流の展開」という部分になる。こちらについては、既に行っていない取り組み内容を削除するなど現状に合わせた更新を行っていて、町長公約の中の1つでもある、まちのブランド力を高める取り組みという部分であるとか、あと、道の駅の機能を有するような拠点の整備などの内容についても追加させていただいている。続いて47ページをご覧いただく。47ページについては、新型コロナウイルス関連の内容が多く記載があったが、コロナウイルスの落ち着いた部分や、引き続き取り組んでいくことなどを整理して内容を更新している。更に5年前と比較し、より必要性が増しているデジタル化に対する考え方などについても内容を追加している。計画の素案については、簡単ではあるが説明としては以上とさせていただきます。

企画課長：では、最後に私のほうから、今ご説明させていただいた基本計画を、今の予定として10月15日から3週間程度のパブリックコメントを実施させていただきたいと考えている。そこでいただいたご意見を踏まえて、改めて計画案を先ほども申したが、作成した上で総合計画審議会に諮問し、その後、議会のほうへ提案させていただきたいと思っているので、よろしく願います。企画課からからは以上である。

山下議長：只今、担当課から今の素案に基づいて16日から3週間ほどのパブリックコメントを行って、12月には提案したいという報告があった。今回出された資料の中でわからない部分だとかあれば質問を受けたいと思う。質問あるか。

田村議員：後期計画の中で、詳しい質問については12月の定例会ですべきだと思うので、少し方向性だけ確認というかお話をしたいのだが。この前期5年間の基本計画の目標の数値が令和6年度の現状値と多分変わっているということだと思うが、赤で下線を引いてあるので、これがもともとの計画から達成して増やしたのか未達成で減らしたのか、テンションを下げたのかというところの検証をまずして、その結果、令和12年度がどうなるという準備だけはしておいていただきたいというか、その方が説明としてはわかりやすい部分があると思うので、その点まず1点目確認をさせていただけるか。

企画統計係長：私のほうから回答させていただく。基本計画の目標値などについては、只今田村議員がおっしゃったとおり6年度のものに更新している。前期の実施評価という部分では、内部でもさせていただいて達成できそうなもの、それから達成が困難なものという部分の整理はさせていただいている。その上で、5年間の取り組み内容を踏まえて、達成が難しそうなものについては一部内容を変更することや、そもそもの目標値の設定の部分で少し現状に合った方向性に修正したものなどもあるので、達成できたのでそのまま、達成できなかったので変更ということをしてすべてやっているわけではないが、その部分の整理はしっかりさせていただいた上で現状に合った目標値や指標に変更はさせていただいている。

田村議員：今ご説明いただいた目標値を検証して新たなものに変えたという、その新たなものに変えるときには必ず根拠があって、こういう検証があって、こういうことをするからこの数値を目指すのだという部分があると思うので、この総合計画の体系の話になってしまうが、総合計画は一番上から基本構想、基本計画、実施計画というのがあって、今、真ん中の基本計画が、今、前期と後期の変わる部分なのだが、この変えるとき、この体系的には上があってそれを構想にめがけて方向性を定めて、その方向性が定まったところに、実施する事業というのがぶら下がってきてそこから考えるという考えというのが三角形の体系で正しいと思うのだが、実際の事務を考えると、トップダウンではなくてボトムアップしないとなかなかつくれないなという部分がある。実施計画がある程度概算でも作られていて、それに基づいて基本計画というのができ上がるのが事務の流れとしてはスムーズなのかなという部分があるので、この実施計画を定めるというか、示されるタイミングというのをスケジュール感で結構なので、教えていただけるか。

企画課長：私のほうから答弁させていただければと思う。確かに実施計画というものが実際にその目標に達するための事業展開になってくるので大切なものだと思う。ただ、この基本計画をまず策定し、その目標の達成のための実施計画というものを今現在、町長の思いも含めて策定中である。今月、いろいろな各課のヒアリングもあるし、今、きちんとした町長の思いを、各課に伝える作業もしてきている。その上で、具体的な予算も絡むことになるので、予算とともに、実施計画の主なものについてはお示しで

きるように、これから準備していきたいと思っている。時期的には今、基本計画が12月にご提案させていただくので、その基本計画をもとに改めて3月の予算提案とともに具体的な事業の内容についてはご説明させていただければと思う。

田村議員：はい、スケジュール感はわかった。今まで一般質問等々で財政推計の話とか、実際の町長公約がどう反映するのかというのが、それが実際には基本計画でなくて実施計画のところで、初めて予算も含めて載るものだと思うので、今のスケジュール感、理解したので。質問とか意見はないが理解した。

鈴木議員：お聞きしたいが、結局5年の総括をしたというものが何もない。これの総括に関しては、この5年間で結果的には人口を修正した。下方修正してこれからもう1回計画立て直すということ。ある程度無理なのはわかっているというのか、計画どおりいくわけがないのはわかっているが、どこかにこの全体、この5年間やってみて次の5年間に進めるという形だと思うのだが、正直言ったら、うまくいったのかいいかないかというところの総括もなかったら、逆にどういう評価しているか。皆さんというか町民も含めて立てているのは事実だが、やっている皆さん方にして、その評価はどうあるのかなというのは、表立ってあってもなくてもいいかもしれないけど、実際の評価はどうだったのかなというのがわからないので。見たら大分修正しているなというぐらいの話で。でも、先ほど言ったように最初の数字がわからないから上方修正なのか、下方修正なのかもわからない。現実的な部分で、どんどん数字を変えていくのは理解するが、要は5年の中間総括というのを、別に計画の中に入れる必要はないにしても、どこかで発表されたほうがよろしいのかなと思うが。もしそうだとしたらどうという評価をしているのかなという疑問も出てくるので、確認である。

企画課長：前期計画に対する評価というものを、その項目ごとに整理した整理表というものは今こちらで用意はしているが、それをまとめた総括的なものを内部ではしてはいるのだがきちんとまとめているものがまだない状況でもあるので、それはきちんと総括という形のをまとめて皆様にお示しできるように準備していきたいと思う。今後、後期基本計画を提案させていただくので、それまでにはきちんと前期評価があつての後期計画になるかと思うので、お示しできるようにしていきたいと思う。

鈴木議員：あと5年前、最初に作ったときもそうだったけど、あまりこれに縛られると本当にやりづらいまちづくりになるし、要は5年前にやって今度5年間、見直しは毎年かけるにしても、あまり具体的すぎると、単に自分たちの首を絞めるだけの計画だと思っているので。一番大事なのは、その時その時にやらなくてはならないことがあったとしても、なかなか今度これに縛られて動けないというところも出てくるし、イレギュラーに対応できないというのもあるのかなと思ったりもするのだが。数値をいっぱい書いているけど、私が見たいのはいろいろな数値でこうしたいというのがある、例えば、現状数値と目標数値、実はそのために何をするかというのは当然書いてないわけで、現状と課題と基本方向を書いているけど、それに対してどうしてきたのかどうしたのかという、先ほどの総括に繋がってくるのだけど、そういうのも入れなくては駄目だよねと言いたいところだけど。それをやりだすと、もう5年間何も考えないでできるということだから、それもどうかなとは思っているけど。計画はなくてはならないと思うが、あまりにもこれびっちり数値をやりすぎると、これは私の意見だが、本当に現場がやりづらいだろうし。この数値を決めるのは各課で決めたのか、それとも審議会委員さんも含めて、この数値で妥当ということを決めたのか、多分そこまでは言ってないと思うがこういう数値にしたいと言ったのは、きっと、各課で出したやつを審議してもらっているということだと思うので。あまり自分で自分の首を絞めるような、今までの方向性、先ほど総括と言ったのは、結局この基本計画が良かったのか悪かったのかどうかという評価にも繋がってくるので。結局うまくいっていないとい

うか、随分よくやっているのだけど、最初の計画自体が甘かったのか、それとも運用の仕方が悪かったのかよかったのかいうところも出てくるので。こういう書き方しか他の町村もこんなふうに行っているの、皆真似しているからしょうがないけど、あまり、詳しくなり過ぎて困るし痛し痒しのところだが、質問になってないかもしれないけど、難しいなと思いつつも、すごい曖昧なところを曖昧にして、ファジーにして、もうせっかく見直すのだからきちんと見直さなくてはならないし、質問になってないが、正直言ったら、この計画というのは、はっきり言っていないと思っている。大まかでいいと思っている。要は、先ほどの質問で、数値の出し方はどういうふうに各課で行ってきたのか、そしてそれを審議会委員はどのような評価をしているのか。そこをお願いします。

企画課長：今回お示した基本計画の中の目標値については、各課においてまずは自分達がやっている事業においてどこを目標にしているのかというところを精査していただいて、企画課で取りまとめたと。企画課のほうでも、それが本当にあまりにもかけ離れているような内容であれば、こちらからもご意見を言わせていただく場合もあったけども、基本的には各課で目標値を定めていたものになる。その上で、総合計画審議会委員に提示させていただいて、審議会の場では、まだこれからパブリックコメントをかけるということもあるが、現状ではいろいろ何点か、考え方の面でご指摘を受けたことはあるけれども、数値の面ではまだ今のところ、特にこの数字はというご意見をいただいているけれども、今後、最終的な、また11月にも開催するので、その場面でもしかしたらあるかもしれないが、現状においては特にご指摘は数字に関してはご指摘を受けてないというのが現状である。

鈴木議員：これができたときは、作ったときはもう人口ビジョン、自分たちで定めた数値で頑張っていこうというような勢いがあったという理解をしているが、結局先ほどの総括にも繋がってきってしまうのだけど、この5年間のやったこと、考えたことをそれぞれ各課が数値を上げてやったことが、どういう評価をしているのか。要は、これをやったからここは伸びた、それはやってないからここは伸びていない、でも、ここに予算かけすぎたけど結局効果はでていないとかいろいろあるが、そういう評価は誰がするのか。

企画課長：その点については、やはりまず自己評価ということで、町の行政側がまずは評価することになるかと思う。その上で、その評価が妥当なのかどうかというのはご意見いただくことがあるかもしれないが、基本的には我々が自己評価して次の段階に進んでいくというのが今のところの流れかなと思っている。

鈴木議員：そのために議会議員がいるのだなということで今理解した。しっかりと見て、もう1回本会議で質問したいと思う。ありがとうございます。

山本議員：審議会が10月5日に開かれていると思うが、それは1週間前ぐらいに多分ホームページで傍聴できるとお知らせが出ていたと思うが、もう少し1か月前くらいにもしわかっていたら予定合わせて行けたと思うので、ぜひ聞きたかったなと思うが、そのお知らせをもうちょっと早めることができなかったのか、まず1点聞きたい。

企画課長：日程に関しては、各委員のいろいろな日程を事前にお聞かせいただいた中で調整し決定させていただいている。あまり早いと、委員の皆様の日程もなかなか固まってないという状況もあり、今回どうしても、それぞれの委員のご都合が固まったのが2週間前程度で決まったということもあって、1週間前程度の周知になったが、委員の皆様のご都合もあるので、できるだけ早めに周知には努めていきたいと思うが、それぞれ12名の委員がおられるので、それぞれの都合を調整しながら日程を決めていきたいと

思う。

山本議員：なるべく早くしていただいたら私も見に行けるのでお願いします。あと、パブリックコメントの開始だが、先ほど田村議員と鈴木議員もおっしゃっていたが、その比較がないと今回のこれになったのがわからないということだったので、そういう点も簡単にかみ砕けるようにして、パブリックコメント募集中だけではなくて、もっと町民の方にも興味持ってやってもらえるようにパブコメ開始しているとお知らせができるかどうか伺いたい。

企画課長：その点は、たくさんの方からご意見いただいきたいと思っているので、周知の仕方を工夫していきたいと思う。

只野議員：数値目標についていろいろ書かれているが、お聞きしたいが、商店街のにぎわい創出の中で、空き店舗活用新規事業者数が現状値は1件で目標値が5件だが、この5件の根拠というか、空き店舗の目星がついているとか、そういうことがわかってこういう数字になっているのかというのを教えていただきたい。

企画課長：その目標値については、各担当課とのまず精査の中で出てきた数字ではあるが、今のところ、ここをというめどが立った上での数字ではないと聞いている。あくまでも5件を目指していきたいというところの数字だと捉えている。

山本議員：住民協議会がまだ最終回が終わってないと思うが、そこで最後に出た意見もこれからここに何か、もう反映されているのか、それとも何かここに更に載ってくるのかどうか伺いたい。

企画課長：今まで4回開催させていただいている。その中で出た意見についてはある程度考慮した中で、今回の計画は記載させていただいている。最終的に5回目が今年22日に予定しているので、そこではあくまでも最終的な総括というようなイメージの協議会になるので、大きな変更はないかとは思いますが、それも含めて、最終的な案を作成する段階で変更が生じれば、変更していきたいと思う。

山本議員：そこで総括されたものと、このものがどんなふうに結びついているのかというのは知ることができるか。

企画課長：今住民協議会の中では、自分たちができるのはこういうことをやっていきたい、自分たちはこれをやるというような内容が中心の話題になっている。そういう話題として捉えて、住民の方がこういうやりたい気持ちがあるところを踏まえて計画を作っている、具体的に住民から出た意見がストレートにここに載っているという形にはなりづらいかとは思いますが。考えた基本的な思いというか、そういうものはここに入っているというようなご説明はさせていただけるかなと思うので。具体的に書類をつき合わせてここはこうだというのは難しいかもしれないが、住民協議会の皆様の思いというものはきちんと分かるようにしたいと思う。

山本議員：こちらの最初のものでは後ろのほうに住民から出た意見がいろいろ書いてあるが、そのようになるのか。それが入っていれば、今私がお尋ねしたことの答えになるのかなと思うが、このように載ってくるのかどうか伺いたい。

企画課長：こういう冊子作る際は、記録としてきちんとその協議会の結果については載せてい

きたいという予定である。

鈴木議員：この後の議会とこのスケジュールリングは、この後、パブコメをとって、あと最後の協議会をやって、あと、我々議員が審議もしくはこれを見ているいろいろな意見を言う機会というのはもう本会議ぐらいしかないのか。

企画課長：これから町長・副町長とも相談させていただきたいと思うが、おそらく結構なボリュームのある計画書になっているので、本会議でストレートではなかなか難しいかなというところもあるので、どういう形でお示しできるかは町長、理事者及び議長とも相談しながらスケジュールはしていきたいと思っている。

鈴木議員：私は基本的にはこの計画自体が好きではないが、やる以上はきちんとやらなくてはならないし、今後5年を左右することだし、各課で上がってきたやつだけ、各課で上がってきたやつを先ほど審議会でやってという話になっているが、結局、本会議に出たとしても、現実的にこの数字はもう修正できないわけである。だったら、やはり丁寧にやっていくしかないかなというような。出た以上はしっかり見たいので、スケジュールリングである。我々が言って数字が変わるのかといたらそう変わらないと思うが、どういう姿勢で各課はこれを上げてきたのだというところを、多分どこかで協議していかなくてはならないような気がする。前日も5年前も何回か説明会をやったものの、結果的にすっと出て、すっといっちゃったという感じなので。大事なものだから、そのスケジュールリングだけはしっかりと、執行部で協議していただければと思う。

企画課長：先ほどご指摘があったように、前計画の検証も踏まえて総括ということも、きちんとお示ししなければならないと思うので、そして、パブリックコメントの結果も、きちんとお伝えする必要があると思うので、できる限りそういう皆様に説明する機会は作っていききたいと思うので、今後、日程調整なり我々の準備もしていきたいと思う。

中島議員：1点だけ。こういう計画というのが、私は先ほどもちょっと出ていた話があるが、現実にこれトータル的に見て、私は町民に、この計画によってまちづくりに夢、希望というのがこれによって感じ取れるようなものが必要だろうと。だからそうなってくると、総括で云々なんていう数字は出てこない、難しい。私がイメージしているとは違う数字を見たら、これはまちづくりの夢、あるいは希望的な数値だという理解をする必要がある。この総合計画はそういうものを感じるものだと、理屈ではない。だから、総合計画に書いてあったがなぜできないと、今、只野議員がお話した町は5件というのは、まちづくりのための希望的な数値だと私は思う。相手がいることだから、結果として1件しか使われていないが、担当者方はその目標に向かって日頃から努力しているのだろうなという思いからいくと、これ数字だとか、理屈でがんじがらめで決められるものではないと私はそういう理解でいる。町民がどこまで理解していただけるかというのは、これはまち全体のまちづくりのことで書いてあるわけだから、町民が理解できること、これは中途半端な時間では理解できないだろうと思っている。であるから、個々において、私は夢と希望、そして、より良い答えを求めて、それは現実であるが、そういうものに計画に沿ったことで、それを現実化・具現化していくという努力を職員の方々、町長筆頭に職員一同、この計画をただ作って終わるのではなくて、今言ったこの部分は夢である、この部分は町民の希望である、これを区分けして出す必要はないが、そういう説明をしっかりと私は持っていればよいと思う。そしてその結果、現実としてこういう現実のまちづくりで総合計画で描いたもので、こういう現実が実行ができた。私は総合計画はそういうものだろうと思っている。町民に理解していただくとは、この総合計画でどんな努力できるか。ヒアリングに出しても何人見ているかわからないけど、多分、全体的には見れる人は私はいないと思ってい

る。見ることはできても理解できる町民は私は難しいと思っている。だからそうやってくると、部分的にでも町民から本当はパブリックやったあと意見をいただければ一番、素晴らしいことだと思うけど。実際にパブリックをやっても町民の何人の方が見ていただけるかという部分では、見ていただく努力は、何か工夫できないのかなという思いがあるが。ただ先ほど言ったように、この夢・希望・現実、これを念頭に置きながら頑張ってもらいたいなど。今回、町長が変わったので、文章見ても、これは執行者が変わったせいなのかなど。そういう町長の思いというのを、先ほどヒアリングしているということなので当然変わってきて当たり前である。ただ、何回もしつこいけども、この総計から夢と希望、そして大きな現実を期待させていただいて拝見したいと思っている。その辺について、担当課は忙しいから向けて難しいところがあると思うが。まとまりのない質問だが、自分たちもこれを持ってもらって区分けしてもらいたい。全部現実なのだと。現実にしていくのは当然だが、人口問題がそうである。これは現実を見てこうだからと一気に下げていくか、結局は少しでも今回あれであるが、下がってきている、緩くなっている。それはある部分ではどうなのだろうという疑問はないわけではないが、これはやはり夢として、あるいは希望としてこういうふうに緩くなってくれればいい、そのために私たちは何をしなくてはならないのだという置き換えをしていると私は思っているから。私も希望的観測で期待をしながら見てやってもらおうと。その辺についてどうか。その周知というのはすごく難しいと思うが。

企画課長：ご意見ありがとうございます。やはりどうしてもこういう計画ものというのは、なかなか慣れていると言いが合っているのかわからないが、見なれている方でないとなかなか理解しづらいというのが現実かと思う。その中で、いかに皆様にわかるように示していくかというのも大切になってくると思うが、ただ計画の形としてどうしてもこういう形は示さざるをえないと思うので。その他、我々が説明できる場にあっては、きちっと細かく砕いて説明していく努力というのが必要なかなと思っているし、今言われたとおり、やはり現実的な目標にすると事務方としては本当にやりやすい仕事になっていく。ただ、まちづくりとしてはやはりある程度の高い目標を定めないと、やっていく意味というか、達成感というものも得られなくなるので、そういう意味での目標数値を上げているという側面もあると我々は思っている。その点もきちんと説明できる場があればその場において説明していきたいと思っているし、お見せできる資料もどういう形がいいのかわからないが、説明資料はわかりやすくする努力が必要なかなと、事務方としては思っている。

町長：中島議員から貴重なご指摘いただいた。やはり、生活を豊かにする、あるいは人生を豊かにするためには、夢と希望というのは非常に大切なエッセンスだと思う。この中で、やはり私がこれを初めて町長になって、この作成からできてきたものを見て思ったことは、やはりざっくりと書いて、皆様にお示しする。その中に、その細目はどういったことを具体的にどうするかというご質問が来たり、あるいは事前に、私としても力入れたいのは、こういうことだということその都度お示ししていくという形になるのではないかと思っている。例えば、まちのブランド力と発信力を高める取り組みというのは、私はこれは予算を設定するよりも、まず自分たちが動いて、そしてお示しできるものだと思っている。また、これを、今月あるいは来月にお示ししていくことになると思うが、これは口頭で補足しながら、また議会において議員の皆様のご質問をしていただく中で披露していくということになるかと思っている。町民の皆様にお示しするとき、わかりにくい、特に力を入れたい部分はこの点であるとか、そういった表現をできるかできないか事務方と相談なのだが、私としてこういうことに力入れますということはお示しをしていければと思っている。今ちょっと曖昧な答えになってしまうが、ご指摘の趣旨を踏まえながらやっていきたいと思うので、よろしく願います。

只野議員：何か希望的なとか夢とかという話が出たが、何かこういう目標を立てるときは、私は商売をやっているので数値目標は必ず立てる。そこに希望的なこのぐらいというのはやはり載らない。事業やっていくのに、5件ぐらいというその数値というのは、やはり経営者としては、やはりこれをやるのだという目標を持ってやっていかないと、その会社というものは機能していかなくなると思う。それは財政的な話で言えば、我々も本当に、毎年この目標を立てて売り上げを作って利益を出す。私は、行政も一緒だと思う。実質公債比率も年々上がって行って、この目標では12.5とか書いてあるが、ここも本当は聞きたいところだが、何か起債を起こして、やはりそれだけ上がっていく原因があるのだろうと思う。ということは、そこにお金を使うということになると。先ほど質問したのは、商工業者としては店が増えて行ってほしいとは皆思っている。でもなかなかそうはいかないが、これ検討されたときには、やはり行政がきちんと考えて、数値的にいろいろな予算も使って出してくれるものだというふうで考えると私は思う。であるが、曖昧でいいとか、希望的な観測でいいとかということとはなかなか私は賛同できないなと思っていて、今、持続化補助金というのが、9月25日に採択されて、清水町は商工会では5件中4件と出た。80%ぐらいが通っているが、前回の採択率は30何%であった。だから、本当にそこに出すには事業計画から綿密な数字から出さないと通らない。そういうのが、私は総合計画なのかなと。そこには本当に毎年毎年の予算がしっかりあって財政計画があってというものだと思う。何かその辺が違うような感じがして、いかがなものかと思うが。

山下議長：数値目標の設定の考え方という部分で、それぞれ話があるので、そういった部分をどう整理していくかという部分で答弁をお願いします。

企画課長：数値目標に関しては、やはり現実的に目指すところとして目標を定める必要があると思っているし、ただ、まちづくりの中で、よりまちづくりに貢献するためには、この数字が必要だというような数字もあるかと思う。そういう中で、財政的なバランスもとりながらということになるので、目標があるけども、今は財政的なバランスを考慮して、ここを目指すというようなことも出てくるかと思う。それは、やはり長期的な視点に立っての目標というものが、今回5年後の目標になるが、そういう目標を定めていくということになるので、現実の達成可能な部分と本当に先ほどおっしゃられたような目標、希望的なところもバランスよく捉えていくのはこの基本計画、総合計画の中では必要なのかなと私は思っている。その数値目標が単に絵に描いた餅にならないように努力するのが我々の責務かと思っている。今回は基本計画であるが、具体的にこの計画の達成に向けた取り組みについては実施計画においてお示しする形になるので、その中で予算、あとは財政的なものを含めてこの事業実施にすることによって何を目指しているかということもお示ししていきたいなと思っている。

中島議員：先ほど私がした5件・1件という話は、5件はやはり町として空き店舗5件を解消したいという希望があったわけでしょう。計画時点では、結果として1件だったでしょう。だから、それをなぜ5件にならなかったのかと私は責める気はない。そういう意味でいうと、5件は、1つは行政として希望的な数値だったのだなと。だけど、空き家の場合は持ち主もいるからそう簡単にはいかないと。だから、そういう中であってはやはり1件かという私はそういう見方をした。それだったら、5件の計画を立ててなぜ5件できなかったのかという議論からしなくてはいけない。企業は単年度であるので、今は5か年とか10か年の計画であるから。私はそういう思いがしているので、只野議員の言われている現実化してく頻度というのは、行政は民間から見たら私は時間かかるし、遅いものかと思っている。だけど、まちづくりのためには根気よく取り組んでいただかなくてはならないと私は思っているから、今言ったどちらを否定するとかそうではないけど、希望とか夢とか、この中に入れたら駄目だということでは、私はないと思っている。ただ、その夢に向かって希望に向かって、行政として最大限

努力をしてもらいたいという期待で、この計画の中身については了解している。だから、その数値がどちらが正しいかとかという全部が数値で書けるものでもないだろうから、私は只野議員の言われた気持ちも企業としてはわかる。だけど、行政としてはどうなの、そこまでスカッとできるものかなという疑問を持っている。これは私の考え方であって、間違っているとは言っていない。その辺で数値に向かって、どちらにしても夢であろうが希望であれば、多少そういうものを含めたとしても、ここに示されたような、実施で出てくる数値に向かって職員一丸となって実施に向けて、最大限の努力はしていただきたい、頑張りたいという思いはある。

山下議長：数値目標については、今課長からも説明があり。また中島議員が説明したように、これはもう目標として向かっていくということで、あと、算出根拠について明確にしてもらおうと。それに対してどのような手だてを打っていくかという部分については、課長も話したように、実施計画の中で予算づけをどうしていくかという部分を、更にもその段階で議論が交わされる部分かなと思う。基本計画の素案の作成にあたっては、今課長が事務方で進んでいった数値としてこのような素案ができた。そして、これからパブリックコメントを受けて、更に精査をしてまた成案となる前に議会に示していきたいということで、また具体的な部分については、その都度、お示しをしていただくということで向かっていきたいと思う。よろしいか。

桜井議員：できれば日程を。パブリックコメントをとる、あるいは審議会をやる、そういった一連の日程をぜひお示しいただきたいと思う。議員であっても、なかなかそういうことがわからないと、ホームページなんか見ればわかるのだという方もいるかもしれないけれども、やはり議員としてそういったことをきちんと確認して、やはり支持者なり町民に伝える関係もあるので、そういう日程的なものをぜひお示しいただきたいかなと思う。

山下議長：桜井議員の質問に対して、できれば総合計画というのは本当に町の基本に関わる部分なので、今まではホームページにボンと出していたという部分があるが、特にあの事務局を通せば、収集もできるので。そういった部分もあるということを入れて、どうするか、今後。

企画課長：まず今後の予定としては冒頭でも若干お話をさせていただいたが、10月15日から3週間、パブリックコメントの期間を設けさせていただく。その中でご意見いただいた上で11月の中旬に総合計画審議会を開催する予定である。その上で、成案となる基本計画案を確定させていただいて、その後、皆様にご説明した上で議会提案というような流れになっていくかと思うので、この詳細が決まったらまた改めてお知らせさせていただきたいと、事務局を通じてお知らせさせていただきたいと思う。日程等の詳細決まったら速やかに皆様にお知らせするようにしていきたいと思う。

山本議員：住民協議会の1回目から4回目はお知らせがなかった。ホームページにも。私の確認では無かったので、住民参加の機会が結構奪われてしまったかなと思う。最後の5回目があるので、それはお知らせのところに載っているので、そこでぜひ来てもらえればと思うが、住民参加の機会が減ったことで、今回パブリックコメントは出せる機会は設けられると思うが、それに対して、先ほどホームページでもっとお知らせしてほしいは言ったが、この内容がどうだったか、どういうふうに、何のためにパブリックコメントという制度が設けられているのかというのが、やはりもう住民の方に知ってもらえるような機会がないと、これもまたパブリックコメント募集中というだけになってしまうかなと思うので、ぜひ今議長もおっしゃっていたが、大事な基本構想になるので、ぜひ住民の方がもっと参加できるように、桜井議員も、これからの日程についてお知らせしてほしいということだったが、ただやっただけとにならないように、ぜひ

住民を巻き込んでもらいたいので、その辺、パブリックコメントに対しての、その前に説明をするかどうかというのは今までないと思うが、もし機会がつかれるのであれば住民の方に知ってもらえるような機会があったらと思うがどうか。

企画課長：現時点で、今回後期計画の策定ということの部分と、やはり10年の総合計画を作る際の扱いでは若干異なってきたかなと思っている。10年の基本構想というものはもう変わらず、それを目指すというものになっているので、その点については、住民の皆からいただいたものに基づく構想なので、それに沿った形で取り組んでいくということは変わらないので、その点も踏まえて計画の策定であるので、改めて、総合計画に関するご説明する場面はなかなか難しいかとは思いますが、今回パブリックコメントで資料を出させていただき、その資料の中の出し方については工夫が必要かなと思うので、もう来週に迫ってはいるが、さらに工夫できるかどうか考えていきたいと思う。

山下議長：今それぞれ6名の議員からはやはり共通しているのは住民周知、そして住民からの意見を皆さんにまた改めて知らせるという部分、やりとりの往復が大事かなというご意見が多数だったと思う。その辺、また事務局とそして理事者と相談しながら、願います。ということで、他に何かあるか。

川上議員：なかなか総合計画はどうしても総花的なものになってしまうという部分は否定できないと思う。そういった中で、私はこれからやっていく中では、職員と理事者側との考えの整合性をどうやってマッチングさせていくかというのが一番難しいのかなと思う。人事異動の中で、担当が例えば課長が変わって基本的に考え方が変わる可能性もある。そういった中で多分、今回出てきたのは前回の部分を踏襲して、新たなものなかなかこう変えていくのは難しいという中で、練った中で出てきたと思うが、その辺の原課の納得性と理事者側の考え方の整合性をどうやって図っていくかというのが今後、実施計画を作っていく中で難しく重要になってくると思う。私も原課、職員の時代するとき、考えが大分ずれていて、自分の考えとはこう納得いかない中で、とりあえず数字を作るという話とかが、結局原課の中でそうになってしまうこともあり得る。そういう部分を今後どうやっていくのかそして原課からの積み上げとなっているが、他の課長だとか、担当者、それ以外の職員が自分の担当課以外のものに対してこう考えているという部分も大事だと思う。政策論議というのは職員の中で作っていくべきだと思うし、そういう中で、この計画はこれはこれでいいが、今後いろいろな計画を作っていく中では、そういうことも頭に入れながら今度やっていただきたいと思う。

副町長（西田史明）：私のほうからお答えさせていただく。今回、総合計画については昨日も実は各課と協議しながら、総合計画の前段階として、こういった話をやっていきたいのだけとということで、各課と協議をしながら、そして月末に向けて総合計画のヒアリング、そして最後に予算の策定のほうに向かっていくということで、できるだけ各課とも丁寧にお話をしながら、いろいろな意見をいただきながら、各課においていろいろな考えもある。町長の思いとそこをすり合わせながら、進めていきたいと思う。

山下議長：他に何かあれば。

（「なし」というあり）

山下議長：なければこれで全員協議会を終了する。長時間、ありがとうございます。

【閉会 12:01】